



高知県自然観察指導員連絡会創
設日 平成 7 - 1989 - 6.30
発 行 高知県自然観察指導員連絡会
〒780 高知市丸の内 1 - 2 - 20
高知県国民体育会局
自然保護課内
Phone 0888-23-1111
副 学 会 長 澤 良 木 庄 一

『ネイチャー高知』の創刊に寄す

高知県自然観察指導員連絡会長

澤良木 庄一

一昨年の夏、第111回高知県自然観察指導員講習会（高知県・日本自然保護協会共催）が、国立室戸少年自然の家を会場に3日間（昭和62年8月14日～16日）開催され、本県初の自然観察指導員が誕生しました。そして、さらに昨年度（昭和63年9月23日～25日）県立幡多青少年の家で同様の講習会が開かれ、指導員は合わせて約90名となりました。

高知県自然観察指導員連絡会は、指導員相互の連絡を第一に、自然観察に関する研修や情報を提供する組織として作られました。ここに創刊されました『ネイチャー高知』は、まさに本会の活動の柱となるものであると思います。本紙を中心として、指導員各位が情報を交換し、提言や体験を発表しあうなど今後大いにご活用いただきますと共に、紙面の充実に一層のご協力賜りますようお願いいたします。

自然観察指導員は、県下のそれぞれの地域で開催される自然観察会の中心的存在として行事を計画し、活動し、指導していただくわけであり、自然に親しみ、自然に学び、自然を守る」という視点からの自然観察会では「五感をフル回転する、自然のなかから発見するよろこび、人と自然とのつながりを見付ける」などの体験をとおして「自然を大切にする」心を養うことをねらいとしています。自然観察は先ず自分の身の回りからはじまり、だんだんに広い視野で自然を見る目を養っていくことを心掛けなければなりません。

自然観察指導員は、平素から機会あるごとに研修を積み、先ずご自身の居住される地域に近い場所で守備範囲を固め、その地域の自然観察のベテランになっていただきたいと思っております。地域の自然はそれぞれ異なる内容をもっていますが、自然を理解し、自然を大切にする心は一つであります。

環境保全の問題は、いまや世界の国々の最重要課題として地球的規模で動いていることはご承知のとおりです。この地球上でわたくしたち人間が長い間生きてきたことによって生じたもろもろの影響が、いま環境破壊という恐るべき事態を招き、なお拡大し続けています。このような時機にわたくしたち一人ひとりが、自然観察会を通じて自然を大切にする心を養う運動を展開していくことは、極めて意義深いことと思っております。自然観察指導員各位はこのことを充分認識され、自然保護運動に一層の情熱を傾けられるよう心から願ってやみません。

『ネイチャー高知』が所期の目的に向かってますます充実発展するようみなさんのご理解とご協力を切にお願いして、創刊のことばといたします。

平成元年初秋

平成元年通常総会報告

平成元年5月13日、県立牧野植物園にて第2回通常総会が開催されました。総会を開催するにあたり、その前段に研修会として昭和62年から2年間にわたり海外青年協力隊の隊員としてご活躍された宮田弘明氏(県林業試験場勤務)に『モロッコの自然』について、スライドによりご講演をいただきました。

さて、総会当日は澤良木会長以下34名の方が出席され、委任状をいただいた28名と合わせて56名となり本会構成員の過半数を超えました。総会は、まず澤良木会長からの挨拶の後、代表世話人箭野雅美氏を議長とし進められ、次の議案及び提案が出席者全員の承認により決議されました。

◇昭和63年度事業実績報告

1 事業の概要

2月11日	第1回通常総会
2月11日	第1回自然観察会・化石に親しむ
6月11日	第2回自然観察会・ホテルを見るつどい
9月23日～25日	第128回高知県自然観察指導員講習会

2 昭和63年度収支決算書

(1) 収入の部

科目	決算額(円)	説明
会員賦課金	82,500	会員79名、準会員4名
雑収入	5,892	観察会5,820円、利息72円
合計	88,392	

(2) 支出の部

科目	決算額(円)	説明
事業費	700	
◆観察会	700	障害保険立替料
通信費	6,720	切手代 60円×112人
次期繰越金	80,972	
合計	88,392	

昭和63年度事業報告並びに財務諸表は前記のとおりです。

平成元年5月13日

高知県自然観察指導員連絡会

会長 澤良木 庄一

副会長 須賀 康

今城 雅彦

代表世話人 箭野 雅美

会計 内村 満紀

代表世話人から提出された昭和63年度事業計画、収支決算書の各事項について監査した結果、その内容は適当であると認めます。

平成元年5月13日

監事 山地 茂昭

◇高知県自然観察指導員連絡会事業計画

1 自然観察会について

(1) 下記の自然保護運動の時期に自然観察会を主催又は既存の行事への協力。

- ・環境週間(6月中旬)
- ・自然に親しむ運動(7月中旬～ 8月中旬)
- ・全国一斉自然歩道を歩こう大会(10月下旬)
- ・ガンカモセンサスの日(1月中旬)
- ・自然に親しむみどりの日の集い(4月29日)
- ・愛鳥週間(5月中旬)

(2) 会員が地元で行う自然観察会への協力

2 会員の資質向上のため研修(講演)を行う。

3 編集委員会を設置し定期的な機関誌(情報誌)を発行する。

- ・年3回県が発行する『土佐の自然』と同時に発行する。

◇会則の改正

- ・会則第6条のうち副会長2名を3名とする。
- ・同条に新たな役員として会長、副会長を補佐し、本会に助言、指導をいただくため、幹事を若干名設ける。

◇役員を選任

会 長	澤良木 庄 一 (再任)
副会長	前 田 卓 (新任)
	須 賀 康 (再任)
	今 城 雅 彦 (再任)
幹 事	澤 田 佳 長
	稲 垣 典 年
世話人	橋 本 淳 (代表・新任)
	野 町 泰 造 (動物部門・新任)
	別 府 隆 守 (昆虫部門・新任)
	鴻 上 泰 (植物部門・再任)
	箭 野 雅 美 (自然一般・再任)
	佐々木 久 夫 (地質、地形及び魚類部門・新任)
	三 本 健 二 (化石、貝類部門・再任)
	西 村 公 志 (鳥類・再任)
	中 村 裕 介 (自然一般・再任)
会 計	内 村 満 紀 (再任)
監 事	山 地 茂 昭 (再任)

◇会費の徴収

本年度会費については、62、63年の講習受講者の格差を是正するため、前年度繰越金充当により徴収しない。

平成元年第1回自然観察会「ホタルを見るつどい」を省みて

今年も昨年に引き続き環境週間中の行事として6月10日にホタルをテーマに観察会を高知市朝倉米田で開催した。

昨年の観察会では反省点が幾つかあり、いかに解消するかを検討した。反省点としては、①実際の観察をする前に講演を行ったが外(朝倉神社境内)で行ったため暗くなり構えていた資料が読めなくなったりし、予定した講演を消化しきれなかった。②観察場所の朝倉用水沿い車道の車の往来が多く安全面で十分とは言えなかった。

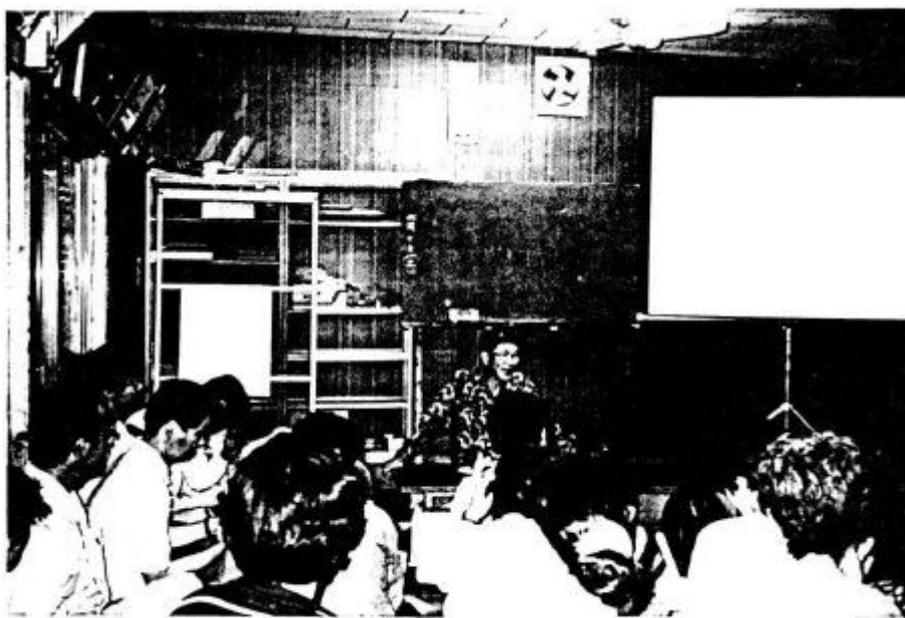
③参加者の中にホタルを取って帰った人がいたようで、地元住民から苦情があった。などであるが②については、講師である岡部氏(高知ネイチャークラブ会長)とも相談したが、高知市周辺に質的(ゲンジ、ヘイケ、ヒメボタルが同じ地域に存在している)、量的に朝倉以上の場所が無いとのことであったため参加者を小さなグループに分け本会会員に安全面に配慮してもらうようにする。①については、米田公民館を借りてその中で行う。③については、観察会の趣旨を参加者に説明し、強く取らないようお願いがいく。こととした。



さて、当日は、梅雨の真っ只中で朝から雨が降ったり止んだりの不安定な天候でやきもきしたが何とかもちこたえてくれた。ただ、このため参加申し込み者の半数しか来なかったがそれでも会員や近所の方の飛び入り参加で50名は越えることができた。また、夜鳴く野鳥の講演のため用意していたスライドエジェクターのランプが切れたりして慌てたりもしましたが(講師の中西氏には、たいへんご迷惑をかけました。)なんとか定刻に始めることができた。

はじめに岡部氏から「ホタルの生態と生息環境」ということでだんだん少なくなっているホタルの現状などについてお話をいただいた。二番目に講演された中西氏

(本会会員)は、夜鳴く野鳥をスライドとカセットテープを使いその生態などについて話された。視覚、聴覚に訴えたのが分かりやすかったようで、子供達もかなり興味をしめしていた。最後に高知市環境課の竹下氏から高知市における保護の現状について、夜間パトロールなどの苦労話を交



講演をする岡部氏(高知ネイチャークラブ会長)

え話され、保護への協力などを求められた。小さな子供を連れた参加者が多く、講演が1時間にもなるため“長すぎるのでは”との懸念、もありましたが、おとなしく聞いていたのは、少し意外だった。

7時半も過ぎ外も暗くなったので「絶対ホタルは取って帰らないよう」お願いした後、参加者を15名程度の2つのグループに分け岡部氏と別府氏(本会会員昆虫部門世話人)を先頭に会員の引率により時間をずらして観察に出発した。

(順路は別図参照)

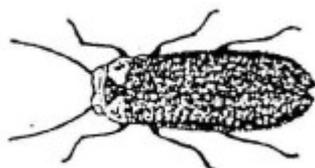
去年は、何百におよぶホタルが出現したが、今回は少し発生時期が遅れていたことや、当日の湿度が高く降り読いた雨で水が濁っていたせいもありポツリポツリしか出現しない。それでもヘイケボタル、ゲンジボタルが観察され、また幼虫の時しか発光しない陸性のホタルの幼虫を一部の人は見ることができた。参加者は少ないながらあちらで一匹こちらで一匹と明滅しながら飛ぶホタルをみつけては「あっちにいる」

「こっちにいる」「きれいやねえ」などと歓声を上げていた。

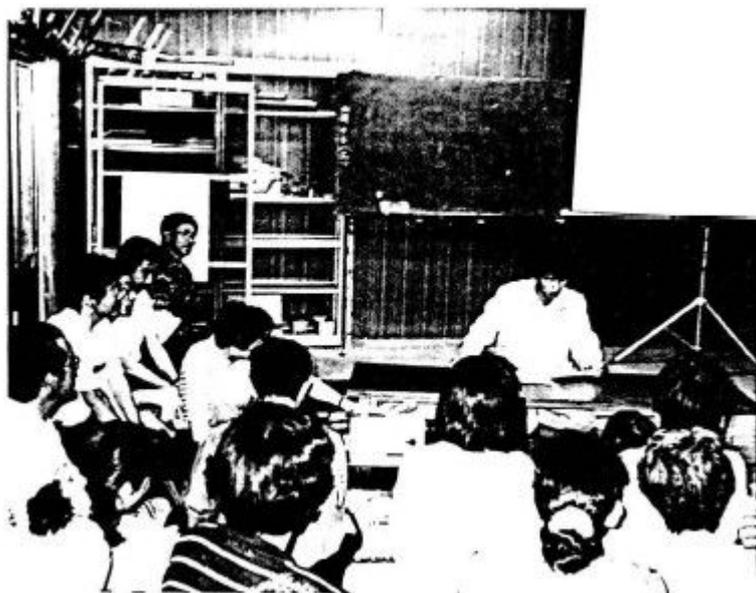
ホタルが少なかったのは残念だったが、車も思ったより少なく事故もなく、またホタルを取って帰られた参加者もおらず無事に観察会を終えることができた。

今回の反省点を活かしまして来年はより良い観察会を行えたらと思う。講師の方々、参加者の引率をお世話いただいた会員の方々、ほんとうに有り難うございました。

(事務局・橋本)



講演をする中西氏(本会会員)



講演をする竹下氏(高知市環境課)



朝倉第2公務員宿舎前での観察

小さな水車がある。



ここが一番出現数が多い。
(解散地点)

陸生のホタルを確認。

ゲンジボタルを確認。

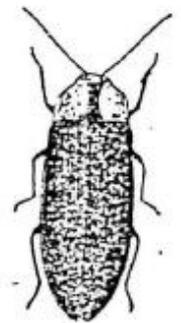
朝倉神社々々
高知市の指定
する保存林で
シイ林がある。

本殿は国指定
の重要文化財
大木が多い。

至：枝川

グループに分け観察

ヘイケボタルを確認。



プレートテクトニクス現地検証研修会に参加して

高橋裕子

もう10年ほど前になるだろうか。NHK-TVでシリーズ「動く大地の物語」が放映された。この番組は、一般になじみの薄い「地質学」が夢とロマンにみちた自然科学である事を広く知らしめ、地質学ファンを沢山つくりだした。わかりやすく筋道をたてて説明し、それに見合った現地取材と、TVならではの映像技術を駆使した番組構成は、知的好奇心を満足させるに十分だった。とりわけ私達に馴染のある「手結」の海岸が、動く大地の証拠の場所として登場し、当時地元高知大学の平先生がそこに立たれて、海の方に手をさしのべて説明されていた画面は印象的であった。プレートテクトニクスを簡単に説明すると、地球表面はおよそ16枚のプレート(岩石のかたい板)でおおわれていて、ほとんどの地質現象はプレートの運動によって引き起こされるという考えである。

1989年7月8日。暑い土曜日の午後、私達はこの動く大地の証拠の地、手結海岸で講師の今城先生(連絡会副会長)の熱っぽい、この地への思い入れの深さが伝わって来るような説明を聞いていた。今城先生は準備をされてきたプリントをもとに解りやすく話をして下さった。

足元にある岩石がこの手結にあるのは何故か。その解釈を試みる時、ここは動く大地の証拠(プレートテクトニクスの証拠)の地なのだ、というのである。しわしわ模様の黒い岩石(泥岩)の部分、赤褐色、緑色、灰白色などが縞状になっている岩石(多色頁岩)の部分、赤褐色の硬い岩石(赤色チャート)の部分、少し光沢があり黒褐色で塊状の岩石(枕状熔岩)の部分、これらが入り混じってまとまった地層(メランジェ)……。無論これらの事が最初から判るわけではない。先生の御説明で得た知識なのだ。現在同じ場所に落ち着いているこれらの岩石が1億3千年前、1億年前、9千年前、8千年前と全く時代が異なるうえに堆積地も5000Km南の赤道海域、その中間の海域、陸地にごく近い海域と異なっていて、この地に辿り着くまでの長い歴史の物語は、プレートの運動の大きな力をうかがわせるに十分であった。この壮大な物語が解明されるまでには、多くの研究者の地味な調査と研究があったことだろう。

先生のお話が一段落して、皆が次々に遠慮なく質問をする。質問があるということは、皆が良く理解できたという事でもあろう。少し移動して突堤の先の海中にある枕状熔岩を見学したが、最初の時と違って皆は遥か南の海底から旅してきたものを、いたわる目になっていた。最後に最近発見されたウミユリの化石を観察した。

日本の地質区分でいえばここは四万十帯。その中の手結は学術的にも非常に貴重な場所で日本国内はもとより、外国からも見学に訪れる地質学者が多いとの事である。郷土の自然をもっと皆で知る機会を得れば、自然を守る心がおのずと生まれてくるだろう。よい講師とよい場所に恵まれ、自然を読み取る楽しさを十分に味わえた研修会であった。

(高知県自然観察指導員連絡会会員・岡豊高校教諭)

自然保護関係組織の概要

土佐植物研究会

■発足の経緯

1974年10月に土佐清水市で、日本シダの会四国支部大会が行なわれ、それに参加した若い(当時)アマチュアボタニスト達の中から、高知県の植物誌を作ろうとの声があがり、翌年(1975年)11月に、高知女子大学の赤澤時之教授のもと十数名の同人により発足した。

■目的

年々失われていく自然に対する感傷だけではなく、積極的な自然保護のためにまず何処に何が現存するのかを記録し、一部の専門家・好事家(マニア)に偏らないアマチュアによるリアルタイムの高知県植物誌を作ることを目的とする。

■活動

毎月の月例会活動を中心とする。1986年までは毎月1回を基本としていたが、1987年からは、4月から9月までの期間に、資料(さく葉標本、写真)収集に重点をおいた活動と、観察に重点をおいた活動の2本だての月例会(年間18回前後)を実施している。資料収集に重点をおいた月例会では重点地域を定め、その地域の植物目録を作成するために、必要最小限の採集を行い、作成された標本は牧野植物園の標本室に保管整理し、機関誌「高知県の植物」に採集植物目録を掲載することになっている。

1. 月例会

- a. 県内を中心に四国四県(時に宿泊を伴い、月に1~2回)。

1975年11月より欠かさず月例会を行い、1989年6月現在通算184回

- b. 四国外への特別例会(1泊-3泊の旅行、年に1-2回)

1989年6月までに4回実施。・・・屋久島、西表島、大山、北岳。

2. 刊行物

- a. 機関誌「高知県の植物」の発行。

会員の研究報文、短報、重点地域の植物目録、月例会報告など年間1回の発行を基本としている。現在第9号まで発行、今年末第10号発行予定。

- b. 月報「ニュースレター」の発行。

翌月の月例会のお知らせ、前月の月例会の略報、会員の消息、植物に関する新刊や文献の紹介、新知見等植物に関する情報、その他連絡事項を掲載し、月1回を基本に発行し、現在No. 45まで発行。

3. その他

総会(年1回)、スライド映写会等。今年10月に写真展を予定。

■1989年の活動と活動計画

今年度の植物目録作成重点地域は横倉山で、16回の月例会の内6回をあてている。

また、四国外の特別例会(観察旅行)は、7月に尾瀬、8月に阿蘇山周辺を計画している。

●6月までに行なわれた月例会と参加者数

第176回 1月22日(日) 総会・スライド映写会	21名
177回 2月26日(日) 奈半利町米ヶ岡白石神社~お茶屋場 (野根山街道)	17名
178回 3月19日(日) 佐川町尾川西山不動岩・穴岩谷	29名
179回 4月16日(日) 越知町横倉山	25名

180回 4月30日(日) 土佐山村富ノ前、日ノ浦	14名
181回 5月6日(土)・7日(日) 梶原町四万川・越知面	11名
182回 5月21日(日) 越知町横倉山	8名
183回 6月11日(日) 面河村土小屋～筒上山～笹倉	26名
184回 6月25日(日) 越知町横倉山	10名

● 7月からの活動予定

第5回特別例会 7月6日(木)～9日(日)	尾瀬参加予定	24名
第6回特別例会 8月17日(木)～20日(日)	熊本阿蘇山周辺	
185回 7月23日(日)	越知町横倉山	
186回 8月13日(日)	越知町横倉山	
187回 9月10日(日)	大野見村	
188回 9月17日(日)	越知町横倉山	
189回 10月22日(日)	物部村三嶺	
190回 11月19日(日)	野市町	
191回 12月2日(土)・3日(日) 大月町柏島		

■事務局高知市五台山 3579-2 高知県立牧野植物園内(Tel. 088-82-2601)

■会費年間一般 4000円 学生 2000円

■会員数 88名(1989年6月現在)

会員数の推移

1978年	26名	1984年	44名
1980年	28名	1986年	50名
1982年	38名	1988年	82名

■今後の展望と課題

高知県の植物目録は、古くは牧野富太郎や吉永虎馬などによって試みられたが完成をみず、和田豊樹著「四国の植物分布とその生態」(1973)によってその概要が明らかになり、山中二男著「高知県の植生と植物相」(1978)によってやっとその全容が明らかにされた。しかし最近の自然環境の変貌は加速度的にスピードを増し、それにしたがって植物相も変化を余儀なくされ、すでに過去の記録となってしまったものや、なりつつあるものなどが急速に増えてきている。また、逆に新たな知見が得られたり、学問の進歩に従って誤りが訂正されたりすることも多い。したがって、植物誌は一度作られたら良いというものではなく、常に改訂を加えるべきものであると思う。しかも一人の学者の業績としてのものではなく、多くの県民

の参加によるきめの細かい植物誌というものができれば理想的であろう。植物研究会としては、単にお花の鑑賞会に終わることのない、より積極的な意味での地道な努力がこれからも必要であろう。

(鴻上泰 1989. 06. 28)



自然観察活動<ハイキング編>

高知県は、三嶺・瓶ヶ森・野根山・四国カルスト・・・と山岳景観や植生・史跡等で魅力的なハイキングコースに恵まれており、各地で数多くのグループが誕生し、活発に活動している。今回は、ユース・ホステル協会の一般参加者対象のハイキング行事を紹介する。

期 日	行 事 名	目 的 地
9月17日	第30回KYHウオーク	伊予富士
10月15日	高知県スポーツ・レクリエーション大会(7)	南嶺
10月22日	全国一斉に自然歩道を歩こう大会 第8回高知県大会	(未定)
11月12日	第31回KYHウオーク	奥白髪
11月23日	第12回シルマン・ウオーキング	高南台地めぐり
12月10日	第32回KYHウオーク	佐川ふる里めぐり
1月28日	第33回KYHウオーク	大滝山 ～ 猿田洞
2月25日	第34回KYHウオーク	新宮山 ～ 鏡ダム
3月18日	第35回KYHウオーク	安和 ～ 久礼 断崖のみち

問い合わせ先:高知県ユース・ホステル協会(24-4499)
(PM 1時… 5時日・祝・水は休み).

中村祐介

【 支部長 西村公志 】

「自然観察指導員連絡会の会報の中で支部の紹介を…」ということでしたので、簡単に紹介をさせていただきます。

高知支部は、日本野鳥の会の第 69 番目の支部として昭和 61 年 4 月に設立し、会員数も設立当時の 70 名から現在の 103 名へと、年に 10 名程度ではありますが、着実に増えてきております。

活動内容は、探鳥会の開催(原則として月に一回)、年に数回の「野鳥写真展」、各種探鳥会の指導、野鳥スライド会などがあり、調査・研究部門では、高知市上空が全国的に見てもタカの渡りの主なコースとなっているために「サシバの渡り調査」、毎年 1 月に行われる「全国一斉ガンカモ調査」などがあります。

また、支部報として「しろぺん」を月刊で発行しております。「しろぺん」という名は高知県の鳥「ヤイロチョウ」の鳴き声からとったものです。

また、簡単ですが高知支部の行事予定を下記に掲載させて戴きました。

よろしければ、ぜひご参加ください。

お問い合わせ、連絡先は下記のとおりです。



〔主な行事予定〕

- ★ 9月10日(日) 「朝倉堰探鳥会」(鏡川、朝倉堰にて)
カワセミなどの身近な水鳥を観察します。
- ★ 10月 8日(日) 「高の森探鳥会」(高知市福井町、高の森にて)
例年、この時期に見られるタカの渡り(サシバ、ハチクマ、ハヤブサ等)を楽しみます。
- ★ 10日(祝) タカの渡りルート調査(カウント)
- ★ 11月25日(土) 第2回日本野鳥の会四国ブロック会議
- 26日(日) 「石土池探鳥会」(ブロック会参加者で)
- ★ 12月10日(日) 「鏡ダム探鳥会」(鏡村、鏡ダムにて)
オシドリをはじめとするカモの仲間、冬の小鳥を観察します。

連絡先 ☎780 高知市福井扇町1171-8 西村公志方
日本野鳥の会 高知支部
☎ (0888)-75-3440

野鳥を愛する人の集まりは県下では日本野鳥の会高知支部の外に次の会があり色々な活動をしています。

○高知野鳥の会

年間行事	場所	時期
① 水鳥探鳥会	松田川河口	1月中旬
② バードウィーク探鳥会	89年は篠山	バードウィーク中
③ タカ渡り調査	宿毛市周辺	10月上旬
④ シギ・チドリ調査	幡多地域	

①②は、従来より会が独自に行っていた探鳥会を県の委託事業とドッキングさせたもので中村駅からパスの便があります。

会報「野鳥高知」は、毎月発行 1989年8月で53号を数えました。

☆連絡先

〒788 宿毛市長田町 2-49 酒井 登志丸

TEL 0880-63-2780

○サークル野鳥

月例探鳥会を行い、毎月会報「山翡翠」を発行しています。会報は、1989年8月で34号を数えました。

高知市周辺の水鳥調査とタカの渡りに何年も情熱を燃やす会員もいればシーズンには毎週のように剣や石鎚まで足を延ばす会員もいます。小人数ですが全員鳥大好き人間の集まりです。

☆連絡先

〒783 南国市大桶甲 1730-1 内村満紀

TEL 0888-64-1362

秋にはタカの仲間のサシパが日本列島を南へ渡って行きます。東は月見山こどもの森、高知市周辺なら高の森、烏帽子山少し西では虚空蔵山、宿毛市上空などで見られます。雲の中から突然黒点が現れてダンダン大きくなりやがてそれが鳥の形になり頭の上をまるで広い川が流れるように空いっぱい次から次へ渡って行く。そんなタカの渡りは一度経験すれば忘れられない不思議な感動を覚えます。

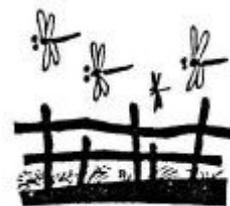
この秋、タカに出会いたい方は、どの会でも探鳥会を企画していますのでお近くの連絡先にどうぞ!!

シーズンは9月下旬から10月中旬まで、例年は10月上旬がピークです。サークル野鳥ではお天気が良ければ高の森で毎日のようにカウントしている会員もいます。



高知昆虫研究会の案内

高知昆虫研究会は発会以来 30 余年、現在会員は約 160 名、日本全国だけではなく外国にまで広く会員がおり、日本でも有数の昆虫研究会であります。



会としての活動は月一回の研究会、春～夏にかけての調査(89年度は中止)、年 1～2 回の会誌(げんせい)の発行などです。

昆虫といってもその分野は非常に広くそれぞれの専門分野に別れています。蝶屋、トンボ屋、甲虫屋(カミキリ屋、オサムシ屋、カメムシ屋)アリ屋(屋といっても虫を売っている分けでは無い)等に別れて、それぞれのグループで情報を交換しあって採集、調査、研究活動をおこなっています。会員のなかには図鑑の著者も多く、特にトンボ、カミキリではすばらしいものが出版されています。

入会は随時、入会金はなし、年会費 2,000 円、小中学生は 1,000 円、会員には会誌げんせい と げんせい通信 が配布されます。

連絡先 事務局

高知市城北町 3-5 吉永 清夫方

高知昆虫研究会 TEL 0888-22-6040

1989 年 9 月以降の研究会予定

9 月 30 日(土)	浜田 康	ネパール紀行
10 月 28 日(土)	野町 泰造	植物と昆虫
12 月 2 日(土)	中山 紘一	竜串の昆虫

場所高知女子大学北舎 4 階生物学教室

時刻いずれも午後 2 時～5 時迄

入会するしないは別にして気軽に遊びにきて下さい。



高知化石研究会

あらゆる動物・植物を対象とする。

実にさまざまな動植物とその生活の痕跡が化石となっている。私たちは、化石であればどんな種類の動植物にも目をそそぐ。また、化石を含む岩石や地層の観察も欠かせない。

毎月フィールドへ

- ◆会員数：14、うち自然観察指導員5人。
- ◆結成：1977年。現在13年目。 ◆会費：年1,000円。
- ◆機関誌：『化石高知』。電子複写。年2回発行、次回23号。
- ◆例会：毎月1回（今年は第三日曜）。もっぱらフィールドへ出る（日帰り）。行先はその都度決める。
- ◆連絡先：781-13 高岡郡越知町越知甲2351 三本健二（電話 0889-26-3634）



高知貝類談話会

貝は10万種 — 昆虫に次ぐ大群だ

動物界で昆虫に次いで種類が多いのが貝類といわれる。門（軟体動物）全体で10万種以上、綱レベルでも巻貝のなかま（腹足綱）は9万種で、昆虫綱に次ぐ大群という。

まぼろしの談話会

高知貝類談話会は、1981年に活動を始めた。しかし、最近久しく会合を開いていない。活動といえば、今年5月に会誌『まいご』3号を発行したことだけである。

全四国への拡大を

会誌『まいご』の存続を図るため、範囲を四国全域へと広げ、組織づくりを進める計画をたてている。できれば近々磯採集か陸貝観察会を開きたい。

＊問合せ先：781-13 高岡郡越知町越知甲2351 三本健二（電話 0889-26-3634）

動物部門の紹介

動物部門については、現在地元でまとまった研究会がないようなので、本会の中で興味のある方々の賛同をいただき、情報交換、観察研究のためのサークルを作りたいと考えていますので御連絡下さい。研究の対象種類は、哺乳類、両生類及び爬虫類をやれと言うことですが、両生類(カエル)や爬虫類(へび)については、女性の方の参加が得られにくいことも考えられるので哺乳類だけの研究参加も可とします。

対象目録(高知県産)

1 哺乳類

ニホンザル、ニホンカモシカ、ニホンジカ、イノシシ、ツキノワグマ、キツネ、タヌキ、アナグマ、イタチ、テン、ニホンカワウソ、ハクビシ、ホンドリリス、ムササビ、ヤマネ、ネズミ類、ノウサギ、モグラ、コウモリ類

2 両生類

サンショウウオ類、ニホンイモリ、ニホンヒキガエル、ニホンアマガエル、アマガエル類、アオガエル類

3 爬虫類

アカウミガメ、クサガメ、ニホンイシガメ、スッポン、ヤモリ、トカゲ、カナヘビ、シマヘビ(カラスヘビ)、ジムグリ、アオダイショウ、ヤマカガシ、マムシ等

◆連絡先: 〒780 高知市南久万 117-19 野町泰造(Phone 0888-25-3356)



高知自動車道で夜間道路に飛び出して事故に合うノウサギが多い。
(南国市)

事務局からのお知らせ

「ネイチャー高知」の発行について

高知県自然観察指導員連絡会の機関誌「ネイチャー高知」がようやく創刊のはこびとなりました。

2年に亘る、自然観察指導員講習会により指導員となった方々の組織として発足した当会は、会員数90名を数え、県下各地における自然保護活動の尖兵として活動しうる人材を備える組織となりました。未だ、組織としての活動は順調に機能しているとはいえませんが、発足以来、観察会〈化石:S.63.2.11 ホタル:2回〉や研修会を開催しささやかながらその動きをすすめているところで、今回当会の活動の証といえる機関誌を澤良木庄一会長の協力を得て発行することが出来ました。

機関誌の発行については、先の総会(H.1.5.13)で「世話人を決めるための世話人」になっていただいた動物や植物等の各部門に精通された方々に編集委員に就任いただき、6月3日の編集会議において機関誌発行について次のように決定いたしました。

1. 機関誌の発行は年3回とする。
2. 発行時期は当会が事務局を置く県自然保護課の発行する「土佐の自然」と同時とする。
 - ① 8-9月(年間事業計画、各部門の事業紹介等)
 - ② 11-12月(事業実施状況、近況報告、情報提供等)
 - ③ 2-3月(実施事業の総括)
3. 機関誌の名称は編集委員による投票によって決定する。
4. 会員相互の交流と会員が所属する他の組織との協調と融合を図るための情報交換の場とする。

当面、以上のような方針で発行することを確認し、機関誌の名称は数多くの提案の中から「ネイチャー高知」に決定し創刊号発行に至りました。

今後は、会員の皆様の協力を得て内容の充実に努めるとともに、会員相互の交流と意見交換の場として、また、会員が所属する他の組織の紹介やイベント情報等を掲載していきたいと考えておりますので、会員の皆様からの投稿、意見発表をお待ちいたします。

また、誌面充実のため次回から、編集委員の独断と偏見による選定で、会員2名を指名し自己紹介を掲載いたしますので“白刃の矢”の当たった方はよろしく願います。

なお、編集委員は次の方々ですので、各部門毎の情報や意見等がありましたら担当委員または、事務局までお知らせ下さい。

編集委員

動物	:	野町 泰造 (TEL:25-3356)
昆虫	:	別府 隆守 (TEL:33-2972)
植物	:	鴻上 泰 (TEL:08875-3-5611)
地質、地形・魚類	:	佐々木久夫 (TEL:43-6979)
化石・貝類	:	三本 健二 (TEL:0889-26-3634)
鳥類	:	西村 公志 (TEL:75-3440)
自然保護全般	:	中村 裕介 (TEL:24-9268)
//	:	箭野 雅美 (TEL:43-9288)



事務局

高知県・自然保護課 橋本 淳 (TEL:23-1111・2280)